石川県英語教育改善プラン

石川県教育委員会

実施内容

（１）英語教育の状況を踏まえた目標　※2020 年は調査なし

①　「CAN-DO リスト」形式で設定した学習到達目標を整備する

	〈2019 達成値〉	〈2020 達成値〉	〈2021 目標値〉	〈2021 達成値〉	〈2022 目標値〉
【高等学校】					
［設定］	98.1%	－ %	100%	98.1%	100%
［公表］	28.3%	－ %	100%	98.1%	100%
［達成状況の把握］	52.8%	－ %	100%	75.5%	100%
【中 学 校】					
［設定］	100%	－ %	100%	94.0%	100%
［公表］	47.6%	－ %	100%	79.8%	100%
［達成状況の把握］	61.9%	－ %	100%	85.7%	100%
【小 学 校】					
［設定］	－ %	－ %	100%	73.6%	100%
［公表］	－ %	－ %	100%	54.7%	100%
［達成状況の把握］	－ %	－ %	100%	65.2%	100%

学習到達目標の［設定］については、高等学校は目標値を達成しているが、中学校は、新学習指導要領に合わせて作成していない学校があった。小学校は、ある特定の地域で学校ごとに作成されていなかった。そのため、目標値に達することができなかった。［公表］については、小・中学校は地域差があるため、目標値に届いていない。高等学校においては新学習指導要領への移行に向けて、指導と評価の一体化を図る働きかけを行い、前回より大きく改善された。また、［達成状況の把握］については、小・中学校、高等学校とも目標値に達しなかった。指導と評価にあたり、CAN-DO リストを明確に意識できていない場面があったことが要因の１つと考えられる。今後は、CAN-DO リストのより実践的な活用の推進が必要である。

②　授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合を増やす

	〈2019 達成値〉	〈2020 達成値〉	〈2021 目標値〉	〈2021 達成値〉	〈2022 目標値〉
【高等学校】	59.6%	－ %	90%	44.6%	100%
【中 学 校】	92.8%	－ %	100%	85.6%	100%
【小 学 校】	－ %	－ %	100%	95.9%	100%

中学校、高等学校は、新型コロナウイルス感染症対策のためペアワーク等を制限したこともあり、前回と比較して低下した。　今回初めて調査を行った小学校については、高い数値となった。中学校、高等学校では、新学習指導要領で示されている「言語活動」について、教師の理解は進んでいるが、つけたい力をつけるための活動に関する知識が不足していることが課題である。特に高等学校においては、専門学科、総合学科の言語活動の実施状況が普通科に比べて低いことが課題としてあげられる。

③　スピーキングテスト、ライティングテスト等のパフォーマンステストの実施回数を増やす

	〈2019 達成値〉	〈2020 達成値〉	〈2021 目標値〉	〈2021 達成値〉	〈2022 目標値〉
【高等学校】					
［スピーキングテスト］					
（コミュⅠ）	2.7 回	－ 回	9 回	2.6 回（英コミュⅠ）	9 回
（コミュⅡ）	1.8 回	－ 回	9 回	2.1 回	9 回
（コミュⅢ）	1.3 回	－ 回	9 回	1.4 回	9 回

	〈2019 達成値〉	〈2020 達成値〉	〈2021 目標値〉	〈2021 達成値〉	〈2022 目標値〉
【高等学校】					
［スピーキングテスト］					
（英表Ⅰ）	1.0 回	― 回	9 回	1.0 回	（論表Ⅰ）9 回
（英表Ⅱ）	0.9 回	― 回	9 回	1.2 回	9 回
【高等学校】					
［ライティングテスト］					
（コミュⅠ）	2.6 回	― 回	12 回	2.5 回	（英コミュⅠ）12 回
（コミュⅡ）	2.7 回	― 回	12 回	2.9 回	12 回
（コミュⅢ）	2.9 回	― 回	12 回	2.7 回	12 回
（英表Ⅰ）	3.4 回	― 回	12 回	3.0 回	（論表Ⅰ）12 回
（英表Ⅱ）	4.2 回	― 回	12 回	4.4 回	12 回
【中 学 校】					
［スピーキングテスト］					
	4.5 回	― 回	5 回	5 回	5 回
［ライティングテスト］					
	4.8 回	― 回	6 回	4.5 回	6 回

【小 学 校】

［パフォーマンステスト］	〈2020 達成値〉	〈2021 目標値〉	〈2021 達成値〉	〈2022 目標値〉
	―	―	100%	100%

中学校では、ライティングが目標値を下回った。回数には地域差がある。高等学校では学校間の取組み状況に差があり、学年が上がると実施回数が減少する傾向がある。この原因の一つとして、CAN-DO リストの達成状況をはかるためのパフォーマンステストのあり方についての理解が進んでいないことが考えられる。

④　授業における、英語担当教員の英語の使用割合を増やす

	〈2019 達成値〉	〈2020 達成値〉	〈2021 目標値〉	〈2021 達成値〉	〈2022 目標値〉
【高等学校】	45.7%	― %	80%	35.3%	90%
【中 学 校】	90.9%	― %	100%	86.6%	100%

中学校は、授業者によって差がある。高等学校では科目によって英語の使用状況に差があり、学年が上がるほど低くなっていることが課題である。指導者の場面に応じた適切な英語の使用方法の知識が不足していることが原因として考えられる。

⑤　求められる英語力を有する英語担当教員の全英語担当教員に占める割合を増やす

	〈2019 達成値〉	〈2020 達成値〉	〈2021 目標値〉	〈2021 達成値〉	〈2022 目標値〉
【高等学校】	92.6%	― %	98%	93.4%	100%
【中 学 校】	44.1%	― %	60%	51.2%	70%

高等学校教員については県の目標値をほぼ達成しているが、中学校教員については県の目標に達していない。新学習指導要領では、中学校でも原則英語で授業を行うことが求められていることからも、教師の英語力向上が課題である。

⑥　求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合を増やす

	〈2019 達成値〉	〈2020 達成値〉	〈2021 目標値〉	〈2021 達成値〉	〈2022 目標値〉
【高等学校】	49.2%	－ %	60%	49.0%	60%
【中 学 校】	48.8%	－ %	60%	56.3%	60%

中学校、高等学校ともに国の目標値（50%）をほぼ達成しているが、県の目標値は達成できていないため、継続して取り組む。

⑦　新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合を増やす

	〈2020 達成値〉	〈2021 目標値〉	〈2021 達成値〉	〈2022 目標値〉	〈2022 達成値〉
【小学校専科】					
［割合］	12.1%	15%	16.3%	15%	15.0%
［人数］	17 人	20 人	22 人	20 人	21 人

現段階では、目標は達成できている。

（２）（１）の目標を達成するための取組

石川県教育委員会の施策の全体像

大学と連携した英語教育の充実に向けた取組み

〔小中学校〕

○英語教育指導アドバイザー（大学教授等）の派遣

新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善に向けて、指導内容・指導方法等について指導・助言を行い、考えや気持ちを伝え合う対話的な活動を重視した授業実践が行われるようにする。

・授業参観及び大学教授による指導・助言
・アドバイザーから収集した情報をもとに、県の課題を明確にし、指導主事の指導に活用。

〔高等学校〕

○大学教授による授業参観及び指導・助言

「話すこと(やり取り)」の指導・評価についての改善に向けて指導内容や指導方法の情報共有を図り、各校への普及を図る。

・授業参観及び指導・助言
・モデル校（４校）による公開研究授業
・「話すこと（やり取り）」に関する指導方法や評価方法などをまとめた改善計画を作成し、各高等学校で実践する。

○「話すこと(やり取り)」に係る指導力向上セミナーの開催

外部講師（大学教授）を招聘し、授業での「話すこと（やり取り）」の指導法や評価法の習得を図る。

○「話すこと(やり取り)」に係る指導力向上のための言語活動事例と評価例の共有

英語教育充実事業の一環として、「話すこと(やり取り)」の指導や評価の具体例を学校に示し、各校での取り組み状況をチェックリストを活用して把握する。また、各校での事例や課題点を学期ごとにまとめ、県全体で共有する。

石川県教員総合研修センターの研修の全体像

〔小学校〕

研修名　「学習評価から見直す指導の在り方～外国語教育と ICT～」
対象者　・小学校教員（希望者）
　　・英語専科教員

目　的　外国語活動・外国語科の指導と評価についての理解を深める。
研修名　「児童の発信力を高める授業づくり～英語力 UP～」
対象者　・小学校教員（希望者）
目　的　外国語活動及び外国語科の学習指導に関する専門性を高める。

〔中学校・高等学校〕

研修名　「生徒の発信力を高める授業づくり～中学校英語～」
　　「生徒の発信力を高める授業づくり～高等学校英語～」
対象者　中学校英語担当教員、高等学校英語担当教員（３年目・６年目・中堅教諭研修受講者は必ず受講する。希望者も受講可能。）
目　的　「話すこと」「書くこと」を中心に４技能統合型の授業づくりについて理解を深め、実践する力・評価する力を高める。

○外部専門機関との関わり等

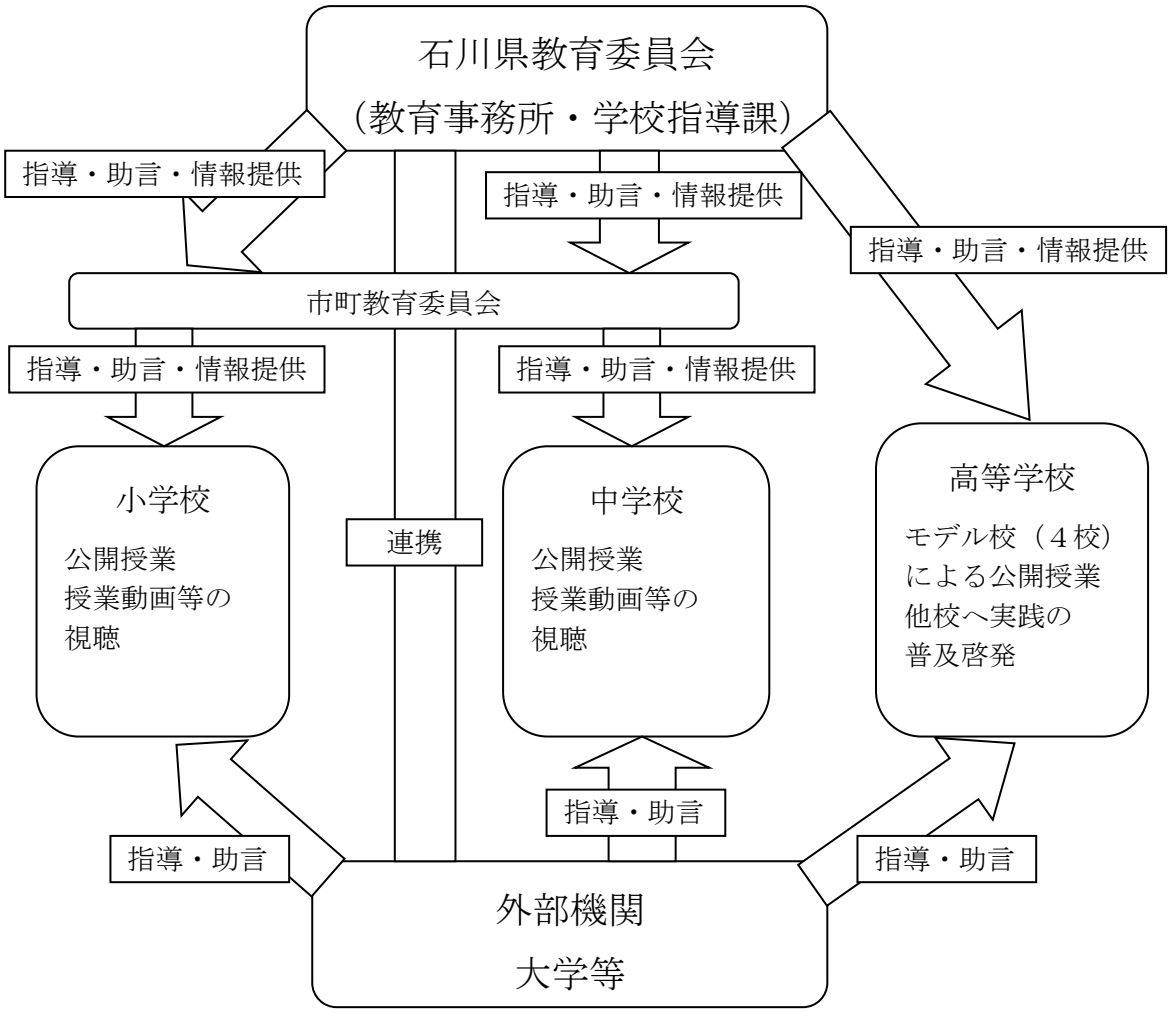
ブリティッシュ・カウンシルから派遣される外国人講師による英語漬けの集中研修を実施する。（小学校半日、中学校・高校１日×２回）

「CAN-DO リスト」形式で設定した学習到達目標の整備状況を改善するために、小学校では CAN-DO リストの作成と活用、中学校では既存の CAN-DO リストの改善を進めてきた。しかし、小中連携を踏まえた CAN-DO リストの作成などについては十分ではない。今後も引き続き、学校訪問等を通して活用状況を把握し、必要に応じて改善に向けた指導・助言を行っていく。高等学校では、CAN-DO リストの設定率は高かったが、新学習指導要領への移行に向けて今年度は CAN-DO リストの見直しを行った。全校種において、CAN-DO リストの公表及び達成状況の把握について、外部講師による評価方法に関するセミナーや学校訪問、公開研究授業等での指導・助言により改善を促していく。また、高等学校における専門学科および総合学科の言語活動をたかめるために、県の英語教育充実事業のモデル校での取り組みや成果を共有することで、言語活動の指導法の改善を図る。

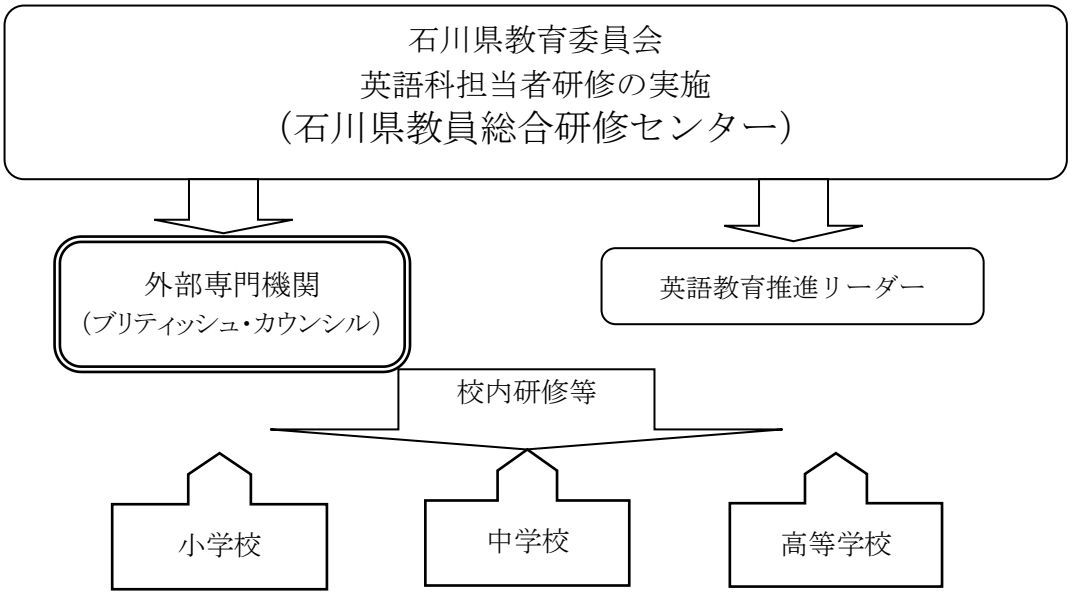
また、スピーキングテスト、ライティングテスト等のパフォーマンステストについては、中学校において、研修や学校訪問等で、文部科学省の資料や県で作成したパフォーマンス例を紹介し、質の向上を図っていく。高等学校においては、発信系技能の適切な評価やそれに基づく指導の改善について研修や公開研究授業を実施しており、今後、各学校での評価例や課題の共有を通して適切な改善が図られていくよう促し、県の目標値に近づけるように努めていく。

（３）（２）を実施する体制の概要

石川県教育委員会の施策（大学と連携した英語教育の充実に向けた取組み）の体制



石川県教員総合研修センターの研修体制



目標管理書

令和4年度様式（様式2）

石川県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容			2018 目標値	2018 達成値	2019 目標値	2019 達成値	2020 目標値	2020 達成値	2021 目標値	2021 達成値	2022 目標値	2022 達成値
高等学校	①学習到達目標の整備状況		設定(%)	100%	100.0%	100%	98.1%	100%		100%	98.1%	100%	
			公表(%)	100%	28.3%	100%	28.3%	100%		100%	98.1%	100%	
			達成状況の把握(%)	100%	60.4%	100%	52.8%	100%		100%	75.5%	100%	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)			60%	46.0%	60%	59.6%	75%		90%	44.6%	100%	
	③パフォーマンステストの実施状況												
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	3回	2.9回	3回	2.7回	6回		9回	2.6回	9回	
			コミュニケーション英語Ⅱ	3回	1.9回	3回	1.8回	6回		9回	2.1回	9回	
			コミュニケーション英語Ⅲ	3回	0.5回	3回	1.3回	6回		9回	1.4回	9回	
			英語表現Ⅰ	3回	1.0回	3回	1.0回	6回		9回	1.0回	9回	
			英語表現Ⅱ	3回	0.6回	3回	0.9回	6回		9回	1.2回	9回	
		○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	6回	3.4回	6回	2.6回	9回		12回	2.5回	12回	
			コミュニケーション英語Ⅱ	6回	3.1回	6回	2.7回	9回		12回	2.9回	12回	
			コミュニケーション英語Ⅲ	6回	1.8回	6回	2.9回	9回		12回	2.7回	12回	
			英語表現Ⅰ	6回	3.0回	6回	3.4回	9回		12回	3.0回	12回	
			英語表現Ⅱ	6回	2.6回	6回	4.2回	9回		12回	4.4回	12回	
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									9回	
			英語コミュニケーションⅡ										
			英語コミュニケーションⅢ										
			論理・表現Ⅰ									9回	
			論理・表現Ⅱ										
			論理・表現Ⅲ										
		○ライティングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ									12回	
			英語コミュニケーションⅡ										
			英語コミュニケーションⅢ										
			論理・表現Ⅰ									12回	
			論理・表現Ⅱ										
			論理・表現Ⅲ										
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)			50%	50%	60%	45.7%	70%		80%	35.3%	90%	
	⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)			92%	90.3%	94%	92.6%	96%		98%	93.4%	100%	
	⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)			50%	45.5%	50%	49.2%	55%		60%	49.0%	60%	

校種	指標内容		2018 目標値	2018 達成値	2019 目標値	2019 達成値	2020 目標値	2020 達成値	2021 目標値	2021 達成値	2022 目標値	2022 達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100.0%	100%	100.0%	100%		100%	94.0%	100%	
		公表(%)	40%	38.1%	60%	47.6%	80%		100%	79.8%	100%	
		達成状況の把握(%)	70%	64.3%	80%	61.9%	90%		100%	85.7%	100%	
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)		95%	88.0%	100%	92.8%	100%		100%	85.6%	100%	
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	5回	4.2回	5回	4.5	5回		5回	5回	5回	
		ライティングテスト(回)	6回	5.0回	6回	4.8	6回		6回	4.5回	6回	
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		85%	88.4%	90%	90.9%	95%		100%	86.6%	100%	
	⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)		50%	39.3%	50%	44.1%	55%		60%	51.2%	70%	
	⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)		55%	50.0%	60%	48.8%	60%		60%	56.3%	60%	

校種	指標内容		2018 目標値	2018 達成値	2019 目標値	2019 達成値	2020 目標値	2020 達成値	2021 目標値	2021 達成値	2022 目標値	2022 達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)					100%		100%	73.6%	100%	
		公表(%)					100%		100%	54.7%	100%	
		達成状況の把握(%)					100%		100%	65.2%	100%	

独自	No.	指標内容	2018 目標値	2018 達成値	2019 目標値	2019 達成値	2020 目標値	2020 達成値	2021 目標値	2021 達成値	2022 目標値	2022 達成値